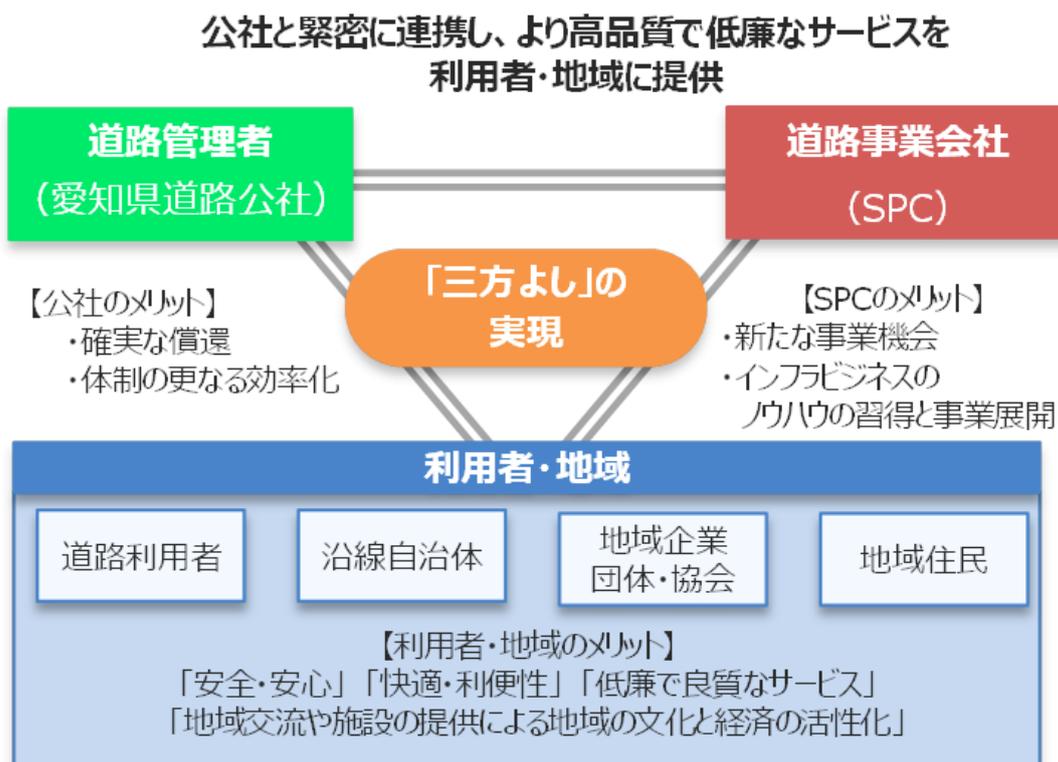


優先交渉権者「前田グループ」の提案概要

◎本事業の目的・理念：確実な道路運営と地域活性化

- 基幹インフラの運営者として強い責任感・使命感を持ち、**安全・安心**な道路サービスの提供を最優先として事業を遂行
- 道路事業の**確実な運営**を前提とした上で、コンソーシアム各社の経営資源とノウハウを結集し、創意工夫による**低廉で良質なサービスの提供**と沿線開発を含めた**地域経済の活性化**を推進
- 道路事業の運営経験やノウハウを活用し、組織や業務の**効率化**を図り、運営権対価の最大化、利用料金の低廉化、運営事業者の経営の安定化という「**三方よし**」を実現
- 沿線やキャッチメントエリアの沿線自治体や様々な組合・団体（農漁業等の生産者組合、観光協会等）、地元企業とハード・ソフトの両面で緊密に連携するとともに、パーキングエリア等の資源を活用し、**地域の文化や経済の活性化**を推進
- 構成企業による沿線開発を推進し、本道路と地域の更なる発展に寄与



◎道路の安全性確保

- **基本方針：何よりも利用者に安全・安心を提供**
 - ・「**道路インフラの保全**」と「**交通流の適正化**」の双方を実現（最適な施設管理計画および交通管理計画を策定し運用）
 - ・道路の管理・保全には **IT を活用**、精度の向上、作業の効率化、データの一元管理と共有化を推進し、業務水準の維持向上と保守費用縮減を両立

- ・ 交通管理者や沿線自治体等の関係者、公社と**緊密に連携**
- ・ **大規模災害への対応力**を強化し、第一次緊急輸送道路の機能を保持
- ・ 国際規格 **ISO55001** を取得・運用
- ・ 道路の安全性確保の課題を絶えず追求・確認し、業務を継続的に**改善**

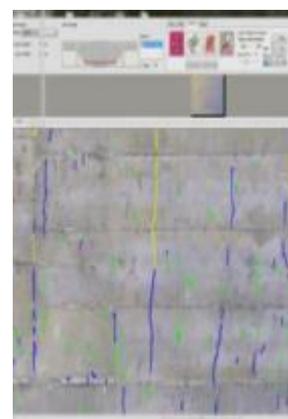
● 具体的な取組内容

①道路インフラの適正な保全の取組

- ・ SPC 内部に**十分な技術者**を配置、**技術的判断**を要する業務を内製化
- ・ 道路の**保全計画**の策定（公社の長寿命化計画を踏襲、**予防保全**）
- ・ **ITの活用**や**新技術の導入**による予防保全の実現
- ・ 委託先企業の継続的確保（長期契約や業務の集約化等により優良な委託先企業を長期確保）

ITの活用による効率的な情報基盤整備

- ・ **帳票類の電子化**により、点検結果、台帳類、修繕履歴、管理帳票等の情報基盤整備を効率的に実施
- ・ **精度の高い要因分析・劣化予測**等の実施が可能となり、問題点の適切な把握、改善、計画への反映により PDCA サイクルを確実に機能させ、**業務水準を継続的に向上**



帳票類の電子化（左）と AUTO CIMA による橋梁床版のひび割れ画像解析（右）

②交通流の適正化の取組

- ・ 危険箇所（逆走や人の立入等）の調査と改善により**事故を未然に防止**
- ・ ETC 等は予備機への交換や保守部品のストック等により故障率を低減

③災害対応力の強化に関する取組（第一次緊急輸送道路の機能保持）

- ・ **BCP** の策定と運用、**応援協定の締結**、代表企業等の**広域バックアップ**

④災害時の支援拠点の整備

- ・ 新設阿久比 PA を災害時の**支援拠点化**、他も**防災備蓄倉庫**を拡充

● 長期計画と目標

①長期計画の策定

- ・ 公社の業務仕様書やマニュアル等の承継やデューデリジェンスの結果を踏まえて、**業務計画書**及び**長期修繕計画**を策定
- ・ 長期修繕計画は短期計画と中長期計画を**構造物毎**に策定し、相互のフィードバックと計画の見直しを実施
- ・ 各種計画は経営計画と整合させ、十分な**修繕・更新予算を確保**

- ・ IT による効率的なデータ蓄積・要因分析を行い、長期的なサービス水準（重要管理指標：KPI）を達成するための計画を策定し運用

②長期目標の設定

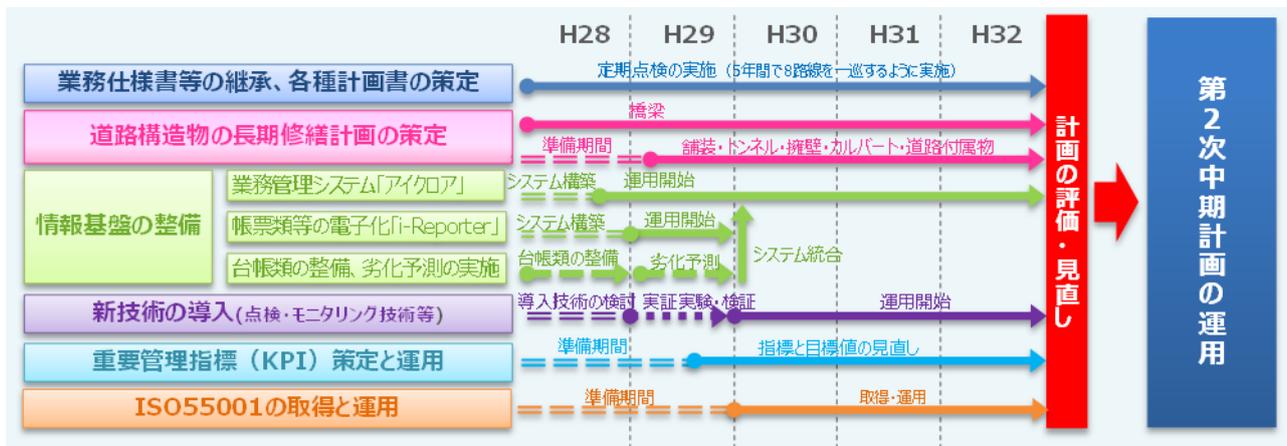
- ・ 経営計画において重要管理指標（KPI）を定め、事業運営を「見える化」
- ・ KPI は経営トップが定め、第三者委員会の評価を受けて毎年見直しを実施、KPI の達成に向けた取組は ISO55001 にて実施し、達成状況を HP 等で公表

③運用スケジュール

- ・ IT システムや新技術の導入等、提案書に記載した内容は2年目までに実現し、運用を開始（改築業務に係るものは改築業務完了時に実現）
- ・ 運営開始後5年間の実績を精査し、H33年度からは第2次中期計画を策定し運用、以降についても5年毎に計画を見直し、業務を継続的に改善

項目	KPI（重要管理指標）	取組の目的
道路インフラの保全	快適走行路面率	安全で快適な舗装路面の確保
	橋梁の保全率	道路資産の健全性の確保
	トンネル・擁壁等の保全率	道路資産の健全性の確保
	道路付属物の保全率	道路資産の健全性の確保
	改築業務進捗率	工事の早期完了による利用者サービスの向上
交通流の適正化	本線渋滞損失時間	渋滞に伴う利用者の損失時間
	路上工事の車線規制時間	利用者に配慮した路上工事の実施
	死傷事故率	交通事故の削減
	車限令違反車両取締台数	車限令違反車両の取締の強化
	逆走事案件数	逆走事案の削減
	人等の立入事案件数	人等の立入事案の削減
その他	改築業務進捗率	工事の早期完了による利用者サービスの向上
	研究開発費	新技術導入の促進
	社員一人あたりの研修時間	職員教育の推進

道路の安全性確保に関する KPI 指標(例)



◎地域活性化の取組の基本方針

- 本道路事業における地域活性化への期待と重要性を認識し、3つの基本方針により取組む
 1. **三位一体事業で未来の道路事業をつくる** Next Movement of Road
 2. **十市町十色を統一ブランドでひろげる** One Brand of Ten Colors
 3. **五つの地域活性化拠点として地域・社会・人をつなぐ** Five Base of Community

◎附帯事業（パーキングエリア）における地域活性化策

- 全PAを一体として新たな地域ブランドを創出する附帯事業を推進
- 各PAでは、6つの「しかけ」により、地域資源「種（ひと・もの・こと）」の魅力活用と地域連携により地域を体感・発信する場を提供

- 各PAは、**地域の豊かな自然の恵み・産業**を象徴する5テーマ（**華・海・大地・宙・森**）で展開・差別化し、**巡って楽しむ新たなPA**を提案
- 各PAを**巡るリピーターと地域交流人口増加**にもつながる多様な**オリジナル商品・イベント**を展開
- 地域全体でのブランディングに際しては、**知多半島南部地域の日本版DMOとの連携**も視野に入れて取り組む



A :地域情報の提供	D :快適な利便施設の提供
情報交流サイト・キッズコーナー・イベントコーナー	テーマ別きれいなトイレ
B :リピーター確保と継続性ある運営	E :優しさ溢れる施設づくり
レストラン・カフェ	ユニバーサルデザイン・ドックラン
C : 地域が参画・出店しやすい運営	F : 安心安全な施設
物販施設・物産店	防災拠点機能

● **各パーキングエリアにおける具体的な取組**

<p>海の種 大府下りPA（新設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新設する大府下りPAは、愛知県内外から知多半島への新たな玄関口 ●知多半島全域、特に半島南端部やその先の島々と海までの観光誘導の要所として、「海の種」をテーマに整備・運営 ●知多半島地域に初めて触れ、知ってもらうための大切な情報発信の拠点として、体験型情報提供を充実化 ●特に、半島南部までの誘客に向け、知多の南部の海や魚介をテーマとした「情報交流サイトのデジタルコンテンツ・子供向けワークショップ」、「レストランメニュー」を展開 ●隣接する白紗池の景観を取込み、緑化により周辺地域に配慮したカフェ・レストランを設置 ●PAの利用者のみならず、地域住民も利用可能な形態とすることで地域貢献
<p>大地の種 阿久比上りPA（新設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新設する阿久比上りPAは、知多半島中心部に位置し文化・歴史・産業施設が周辺に点在し知多半島の観光・交流の核となるポテンシャルがある ●古くから豊かな「農畜産物」（フルーツ・花・野菜・酪農など）と、「醸造」文化も花さいた、知多半島の「食」の結節点といえるエリア ●連結する任意事業施設「知多の大地」とともに、食と農業を中心に様々な魅力を集約、広げる知多半島の核、「大地の種」をテーマに整備・運営 ●サイクリング等のアウトドアスポーツにも積極的な地域でもあり食と健康をテーマに地域連携 ●周辺の代表産業である「農業」と、食文化である「醸造」をメインテーマに置いた「食のバーチャルサイト」を核に、情報発信施設と地域産業や文化を体験するための物販施設や飲食施設を設置 ●連結する任意事業施設や周辺エリアとも連携できる動線計画とし半島全域の交流人口拡散

華の種	大府上りPA（既設）
<ul style="list-style-type: none"> 既存の大府上り PA はセントレアや知多半島からの、名古屋や東海圏への玄関口であり、国内・県内来訪者へのファーストコンタクトの要 来愛を歓迎する知多の豊富な花々に囲まれたPAとして、ウェルカムゲート「華の種」をテーマに整備・運営 インバウンドやセントレア利用者に対して、愛知県の「昇龍道プロジェクト」も踏まえた「広域観光コンシェルジュ機能」を確保 施設のリニューアルを図るとともに、情報発信をメインとする施設を増設 既存駐車場の安全性の問題を解決するため、歩車分離や観光バス駐車スペースの再レイアウトを実施 緑地部分に屋外休憩所やドッグランを整備 	
大地の種	阿久比下りPA（既設）
<ul style="list-style-type: none"> 新設阿久比上り PA およびそこに連結する任意事業施設「知多の大地」と一体となり、滞在型体験施設を形成 知多半島での観光資源や食文化の情報発信をメインにした任意事業施設「知多の大地」に誘導する入口「大地の種」として、知多半島全域での観光レジャー誘客へ寄与 既存施設のリニューアルを図るとともに、情報発信をメインとする施設を増設 任意事業施設との連絡通路を設け、上下線 PA と一体的に運営 	
宙の種	美浜下りPA（既設）
<ul style="list-style-type: none"> 半島南部の豊かな自然に触れるアクティビティのベース地としてのポテンシャルがある 美浜は見晴らしが良く、天体観測の場として最適な立地条件であるため、「宙の種」をテーマに新たな PR と整備を行い集客 周辺観光スポットへの来訪者向けサービスを展開、南知多道路はマラソン大会に開放した実績も有るため、スポーツ企画や地域のサイクリング活性化団体との協力の充実化 	
森の種	西広瀬上り・下りPA（既設）
<ul style="list-style-type: none"> 奥三河への大動脈であり、東海随一といわれるモミジの名所香嵐渓や足助の街並み、塩の道、愛知県の屋根・茶臼山につながる道として県内外からの観光利用があり、行楽客や観光客をターゲットに「森の種」をテーマに季節マルシェなどを展開 周辺地域には、瀬戸物や自動車産業でも有名な地域であり観光・産業面での利用を見込む 	

◎任意事業（道路区域外）における地域活性化策

- 地域にひろげ、地域へひろがる「面」と位置付け、以下の取組方針により推進
 - ① **公共性**が高く、**地域産業・社会の発展**に寄与し、地域連携により**持続可能な事業**
 - ② 特定の一市町でなく、知多半島全体等、**広域的な活性化**につながる事業
 - ③ **地域資源**（ひと・もの・こと）を活かし、**新たな地域産業の創出**につながる事業
 - ④ 特定事業・附帯事業との三位一体・**相乗効果**が期待できる事業

● 具体的な個別事業

①食の拠点事業	阿久比PA上り連結型事業「愛知多の大地」
②環境取組の拠点化事業	<p>環境エネルギーを活用した防災拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿久比PAに隣接する食の拠点事業敷地内では、1000人規模の避難場所の提供を目指し、太陽光発電設備（20kW相当）とリチウムイオン蓄電池（15kWh相当）の整備を検討 ・阿久比PA以外の知多半島道路の各PA施設内にはリチウムイオン蓄電池（2.5kWh相当）を整備し、夜間のLED照明や情報機器の電源などの利用に活用

③コンベンションの拠点化事業	中部りんくう都市（空港島）ハイクラスホテル
④物流の拠点化事業	地域産業連携型 物流事業 ・産業集積と交通利便性を活かし 物流の拠点化事業 を検討・提案 ・①航空・自動車等の 産業向け 物流施設整備、②長距離トラック「 荷物積み替え拠点 」の整備③生鮮食品・生花等用「 水感庫 」の整備を検討
⑤環境取組の拠点化事業	地域産業連携 バイオガス事業

①食の拠点事業『阿久比PA上り連結型事業「愛知多の大地」』

- ・阿久比PA上りに**連結し食の拠点事業の核**となる「愛知多の大地」を整備。
- ・附帯事業の「愛知多の種」と一体的コンセプトの下、**食と安らぎのリゾート施設**を展開し相乗効果発揮、三位一体の広報を実施
- ・**地域生産者、企業、団体**等と連携参画しやすい施設整備と運営を推進
- ・**有名なシェフ・パティシエ**を起用、地域の生産者、料理人と利用者の顔が見える事業を展開、料理学校等と連携、**次世代料理人や生産者育成**
- ・「昇龍道プロジェクト」など**広域観光活性化にも寄与**
- ・**テーマ性**を持たせ、地域開放性とインバウンド誘因を両立

敷地面積：約31,000坪

想定事業費：約35億円

予定駐車台数：PA利用車用 約550台、一般車用 約580台、観光バス用 約25台



※パースはイメージで、今後、諸官庁協議等で変更の可能性がある

③コンベンションの拠点化事業『中部りんくう都市（空港島）ハイクラスホテル』

■ホテル計画コンセプト

- ・国内外からの利用客に対応可能なインターナショナルブランドを誘致し、**地域の誇り**となるホテル
- ・客室数を150～300室程度とし、VIPに対応可能な宿泊機能
- ・「MICE機能」(注)及び「にぎわい機能」とホテルの**駐車場**を共有し、施設の有効利用を促進
- ・大規模**バンケット機能**や**コンベンション機能**をMICEに移管し、機能を効果的・効率的に分担（大規模な宴会や発表会等のイベントはMICEで開催し、宿泊・レストラン利用等はホテルを想定）

(注) MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

■ホテル計画地周辺との関連性



⑤環境取組の拠点化事業『地域産業連携 バイオガス事業』

- ・周辺地域とのヒアリングを通じて長年の**地域産業（酪農）が抱える牛糞処理の問題を解決**する「地域産業連携型バイオガス発電事業」を提案
- ・**構成企業が独立採算**で実施し、酪農企業や**自治体**と共に住み易い街づくりと酪農・農業の活性化に寄与、地域への利益還元が可能

